

シャープ通信

2023年9月 vol.37

「シャープの今」をお届けします。

広報担当

2023年度 第1四半期決算を発表

8月4日(金)、当社は堺本社多目的ホールにて、2023年度第1四半期の決算説明会を実施しました。



代表取締役副社長の沖津さん(右)と 常務執行役員 管理統轄本部長の小坂さん

2023年度 第1四半期の売上高は、エレクトロニックデバイスが増収となったものの、その他の4セグメントが減収となり、前年同期を下回りました。一方、営業利益、経常利益、最終利益は、前年同期比では下回ったものの、2022年度第4四半期比では大幅に改善しております。

今後、通期での最終利益の黒字化に取り組んでいくとともに、中長期的な事業の拡大に向け、新規事業の早期具体化や事業変革の加速、ブランド事業を主軸とした事業構造の構築を進めていきます。

ブランド事業(スマートライフ&エナジー、スマートオフィス、ユニバーサルネットワーク)の売上高は前年度比 6.8%減の 2,990億円、デバイス事業(ディスプレイデバイス、エレクトロニックデバイス)は同 1.5%減の 2,545億円、全社合計では同3.7%減の 5,412億円(連結調整含む)となりました。

【各セグメントの概況】

<スマートライフ&エナジー>の売上高は前年同期比 5.8%減の1,066億円となりました。白物家電は、市況低迷の影響を受けた冷蔵庫や調理家電、空気清浄機が減益となりましたが、高付加価値化が進み、国内で大幅に売上を伸ばした洗濯機や海外のエアコンなどは増収となっています。<スマートオフィス>の売上高は、同 2.8%減の1,266億円で、ビジネスソリューション事業が減収となったものの、MFP事業やスマートオフィス事業は欧米を中心に引き続き堅調に推移しました。また、PC事業では、欧州から撤退した一方、国内のB2Bが教育関連などが伸長しました。<ユニバーサルネットワーク>の売上高は、テレビ事業、通信事業とも減収となり、同 14.9%減の657億円となりました。テレビ事業は市況が悪化した国内や中国の販売が減少しました。通信事業はフラッグシップスマートフォンの売上が伸長しましたが、国内の需要減速が継続した影響を受けました。<ディスプレイデバイス>は、車載向けパネルなどは大きく伸長しましたが、市況の低迷によりスマートフォン向けやPC向けのパネルが減少し、同 9.6%減の 1,713億円となりました。<エレクトロニックデバイス>の売上高は、顧客の2022年用モデル向けデバイスの販売が堅調だったことから、同 20.8%増の832億円となりました。

今後も非常に厳しい事業環境が継続する見通しにありますが、全社をあげて開源節流※を徹底し、通期の最終黒字を必達してまいります。

※ 「開源節流」とは、健全な財政を川の流りに例えた言葉で、「開源」とは水源を開発すること、即ち、新たな事業を創出し売上を伸ばすことを意味し、「節流」とは水の流れる量をしっかりと調節すること、即ち、ムダを撲滅することを意味します。

創業111周年記念イベント「SHARP Tech Day」に先立ち 「SHARP Tech-Forum」を開催



▲「SHARP Tech-Forum」でのパネルディスカッションの様子

左より、常務 研究開発本部長の種谷さん、シャープセミコンダクターイノベーション株式会社 第二開発部長の堀川さん、金指 壽 様、蔣尚義 博士、菅沼 克昭 名誉教授、研究開発本部 ソサイエティイノベーション研究所 副統轄部長 兼 第四研究室 部長の伊藤さん、Panel-Semicon研究所 プロセス開発室長の牧田さん

8月7日(月)、東京都千代田区の東京国際フォーラムにて、昨今産業界で大きな関心を集める「半導体」をテーマにした「SHARP Tech-Forum」を開催しました。これは、創業111周年記念イベント「SHARP Tech Day」(11月11日開催)の先行イベントとして開催したものです。

「半導体」は次世代通信技術・AI応用・ロボティクスの進展等の社会イノベーションを支える基盤技術であり、各国で戦略的な取り組みが行われ、世界中の企業や研究機関でも活発に研究開発が進められています。日本においても、米中貿易摩擦や経済安全保障上の観点から国内生産の重要性が高まっており、政府が後押しするなど、半導体技術の国内回帰の動きが加速しています。

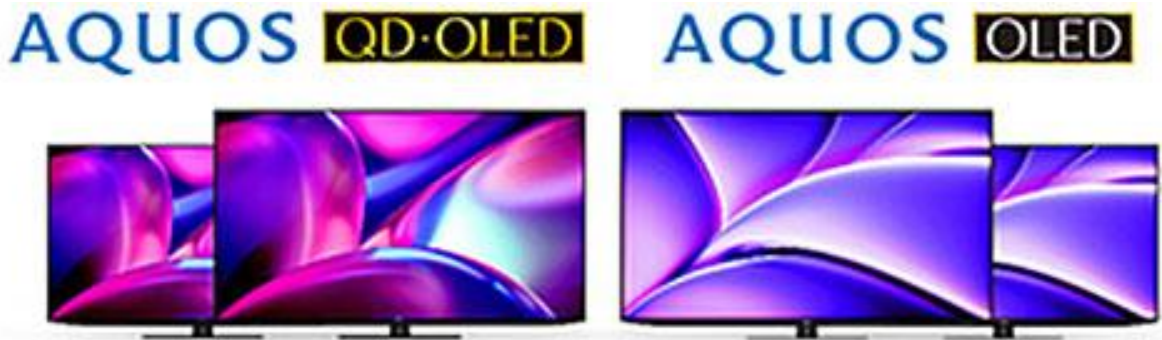
そこで、本フォーラムでは、「半導体」の最新の業界動向や将来展望をお届けするため、「産学官」の第一線でご活躍される国内外の専門家3名<鴻海グループ 最高半導体戦略責任者 蔣尚義 博士、大阪大学 菅沼 克昭 名誉教授、経済産業省 商務情報政策局 情報産業課長 金指 壽 様>をお招きし、前半は講演会、後半は当社メンバーを交えたパネルディスカッションの2部構成で実施しました。



▲開会の挨拶を行う 常務 研究開発本部長の種谷さん

当社では現在、「Be a Game Changer」を合言葉に、自社の開発リソースを強化するとともに、グローバル企業との協業やスタートアップ企業との連携などオープンイノベーションを加速、AIやロボティクス、XR(クロス・リアリティ)、6G(シックス・ジー)、食・水・空気、グリーン、宇宙等の分野を中心に、世の中を変える革新技術の創出に取り組んでいます。11月11日に開催予定の「SHARP Tech Day」では、今後の技術戦略を紹介するとともに、独自技術を採用した革新的な製品やソリューションを展示する予定です。

4K有機ELテレビ『AQUOS QD-OLED』『AQUOS OLED』2ライン4機種を発売



▲左から:4K有機ELテレビ<4T-C55FS1、4T-C65FS1、4T-C65FQ1、4T-C55FQ1>

当社は、4K有機ELテレビ『AQUOS QD-OLED』<FS1ライン>と『AQUOS OLED』<FQ1ライン>の2ライン計4機種を発売します(FS1ラインは9月16日発売予定、FQ1ラインは8月5日発売)。明暗豊かな映像と迫力の立体音響により、あたかも映画館やスタジアムにいるような臨場感溢れる視聴体験をご提供します。

■ 主な特長

1. 「量子ドット有機EL(QD-OLED)パネル」を新たに採用<FS1ライン>
2. 明暗豊かでダイナミックな映像を映し出す高輝度「S-Brightパネル」<FQ1ライン>
3. AIプロセッサーを採用した画像処理エンジン「Medalist S4X/S4」を搭載。
4. 包み込まれるような音声を届ける音響システム「AROUND SPEAKER SYSTEM PLUS」

ウォーターオーブン「ヘルシオ」3機種を発売



▲ 左より、ウォーターオーブン「ヘルシオ」<AX-LSX3A-S(パイレーションシルバー)/AX-RS1A-H(グレー系ダークメタル)/AX-NS1A-W(ホワイト系)>

当社は、たっぷりの過熱水蒸気による調理で、食材本来の味を活かしながらおいしくジューシーに調理できるウォーターオーブン「ヘルシオ」3機種を発売しました(発売日は<AX-LSX3A/-NS1A>:7月27日、<AX-RS1A>:8月8日)。新製品発売に合わせ、外食サービス「塚田農場」と共同開発した新ダウンロードメニューの提供も開始しました。

■ 主な特長

1. 「塚田農場」と地鶏の丸鶏を手軽に焼けるダウンロードメニューを共同開発。地鶏を熟知したプロ監修のおいしさを、家庭で手軽に楽しめる<AX-LSX3A/RS1A>
2. 冷めたおかずや惣菜をできたてのような食感に復元する「ヘルシオあたたため(おいしさ復元)」
3. 冷凍食品を最適な状態に仕上げる「食べごろ解凍」<AX-LSX3A/RS1A>

プラズマクラスタードレープフロードライヤーなど3機種を発売



▲左より <IB-WX901-B(ブラック系 ミッドナイトブラック)/-W(ホワイト系 ルミナスホワイト)>

当社は、独自の速乾方式を進化させるとともに本体の軽量化・スリム化^{※1}を実現した新デザインのプラズマクラスタードレープフロードライヤー<IB-WX901>およびプラズマクラスタードライヤー<IB-P801/P601>の計3機種を8月24日に発売しました。

■ 主な特長

1. 新開発の速乾方式「ドレープフロー X4」により、速乾性能が当社従来機比約35%^{※2}向上。デザインも一新
2. プラズマクラスターイオンにより美髪ニーズにも対応。静電気や摩擦ダメージを抑制
3. 距離センサーとAIで送風温度を調整し、熱ダメージから髪を守る「SENSINGモード」搭載

※1 プラズマクラスタードレープフロードライヤー<IB-WX3>(2022年)との比較。

※2 当社調べ。HOT/TURBO運転時。水分を含ませたマネキンの毛髪に温風を当て水分が約75%減少する(当社基準)までに必要な平均乾燥時間を測定。<IB-RP9>(2022年、ドレープフロー技術非搭載)が8.38分に対し、<IB-WX901>(2023年)は5.47分。

プラズマクラスタードラム式洗濯乾燥機 3機種を発売



▲左よりプラズマクラスタードラム式洗濯乾燥機<ES-X11B-S(クリスタルシルバー)/-T(リッチブラウン)>、<ES-V11B-N(アッシュゴールド)>、<ES-G11B-S(シルバー系)>

当社は、高い省エネ性と乾燥力を備え、お手入れの手間を軽減する「ラク家事」機能を強化したプラズマクラスタードラム式洗濯乾燥機 3機種を9月14日に発売します。

■ 主な特長

1. 「乾燥フィルター自動お掃除」機能と当社独自のセンシング技術[※]により、業界トップクラスの省エネを実現
2. 「乾燥ダクト自動お掃除」機能の進化や新搭載の「ドアパッキン自動洗浄」機能により、乾燥効率の低下を抑え、日々のお手入れの手間を軽減
3. 「高圧シャワーすすぎ」を新開発。節水しながら効率よくすすぎ、衣類の洗剤残りを抑制

※ ES-X11B:7つのセンサー(温度・湿度・水位・重量・泡・光・振動)、ES-V11B/G11B:5つのセンサー(温度・湿度・水位・重量・振動)が洗濯状況に合わせ自動で最適な運転パターンを選択。

★ WEB社内報「SHARP for Family」をスマホやPCでご覧いただけます！！

URL: <https://blog.sharp.co.jp/family/>

または、こちらのQRコードからアクセスしてみてください！！ →

